

2023年3月期 第3四半期 決算説明資料

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1) 決算概要 | 6) トピックス |
| 2) 決算のポイント | 7) 減価償却費と研究開発費 |
| 3) 国内売上高 | 8) 通期業績見通し |
| 4) 海外売上高 | [参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響 |
| 5) 商品群別売上高
[参考]内訳 | [参考] COVID-19関連需要(概算) |



日本光電工業株式会社

銘柄コード:6849
2023年2月3日

1) 決算概要

	2022/3 第3四半期 累計	2023/3 第3四半期 累計	増減率 (%)	(単位:百万円、単位未満切捨て)
売上高	148,078	144,557	△ 2.4	
国内売上高	96,597	93,569	△ 3.1	
海外売上高	51,481	50,987	△ 1.0	← 為替影響除く: △16%
売上総利益 (売上総利益率)	79,188 53.5%	73,496 50.8%	△ 7.2	← 自社品 売上比率: 2021/12 72.1% → 2022/12 71.7%
営業利益 (営業利益率)	23,316 15.7%	11,377 7.9%	△ 51.2	← 販管費: 558億円 → 621億円 販管費率: 37.8% → 42.9%
経常利益	24,677	13,937	△ 43.5	← 為替差益: 979百万円 → 2,058百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	16,911	8,860	△ 47.6	

平均レート	(2021/12)	(2022/12)
1米ドル	110.2円	134.0円
1ユーロ	130.9円	140.6円

- 売上高は2.4%減の1,445億円となりました。
- 国内売上高は、3.1%減の935億円となりました。消耗品・サービス事業の強化に注力したほか、検査・手術件数の回復や設備投資の再開により、生体計測機器や検体検査装置は好調に推移しました。一方で、前年同期に感染症対応のため整備が進んだ生体情報モニタや人工呼吸器の反動から、減収となりました。
- 海外売上高は、1%減の509億円、現地通貨ベースでは16%の減少となりました。前年同期に感染再拡大地域で需要が増加した生体情報モニタ等の反動に加え、上海ロックダウンの影響もあり減収となりました。第3四半期会計期間では、米国の中位機種ベッドサイドモニタの新製品効果や円安効果もあり、全ての地域で二桁成長となりました。
- 営業利益は、減収に加えて、部材価格等の上昇や売上構成の変化による売上原価率の上昇、人員の増強および営業・サービス活動の正常化に伴う販管費の増加により、51.2%減の113億円となりました。粗利率は、50.8%となりました。
- 経常利益は43.5%減の139億円、純利益は47.6%減の88億円となりました。
- 第3四半期会計期間の社内計画に対しましては、売上高は下回りましたが、販管費が想定を下回ったことから、営業利益は概ね計画どおりで推移しました。国内売上高は計画どおりの進捗でした。海外売上高は二桁成長だったものの、計画には届きませんでした。

2) 決算のポイント

売上高：前年同期比 2.4%減

- 国内：検査・手術件数の回復や設備投資の再開により、生体計測機器や検体検査装置は好調に推移。前年同期に感染症対応のため整備が進んだ生体情報モニタや人工呼吸器の売上が減少。
- 海外：前年同期に感染再拡大地域で需要増加した生体情報モニタの反動や上海ロックダウンの影響もあり減収。3Q会計では、米国の中位機種ベッドサイドモニタの新製品効果や円安効果もあり、全ての地域で二桁成長。

営業利益：前年同期比 51.2%減

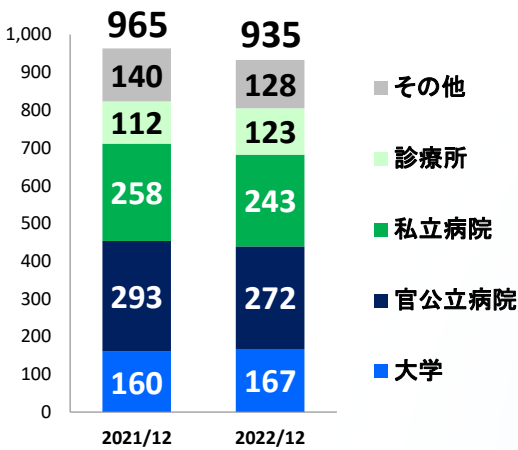
- 減収に加え、部材価格等の上昇や売上構成の変化による原価率の上昇、人員の増強および営業・サービス活動の正常化に伴う販管費の増加により、減益。

経常利益：前年同期比 43.5%減

- 為替差益は増加。

3) 国内売上高

【市場別売上高】



【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

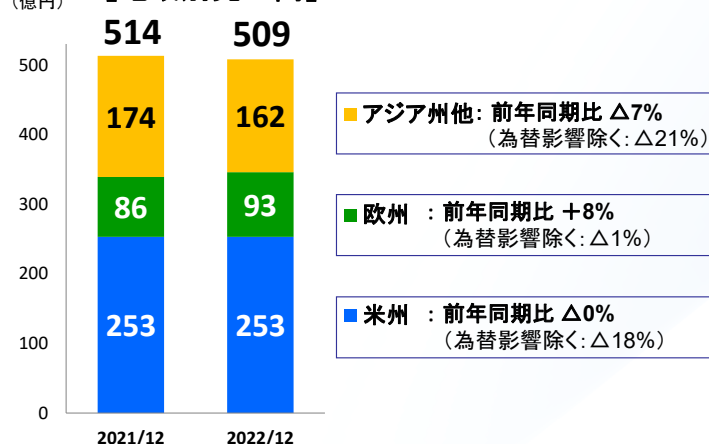
	2022/3 第3四半期 累計	2023/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	20,562	23,375	13.7
生体情報モニタ	34,884	30,711	△ 12.0
治療機器	20,904	18,494	△ 11.5
その他	20,246	20,988	3.7
売上高合計	96,597	93,569	△ 3.1

【市場別】 官公立病院、私立病院市場は、生体情報モニタや人工呼吸器の整備もあり好調だった前年同期を下回る。設備投資の再開や検査・手術件数の回復により、診療所市場は好調、大学市場も堅調に推移。
 【商品群別】 生体計測機器: 脳神経系群、心臓カテーテル検査装置群が二桁成長。診断情報システムも好調、心電計群は堅調に推移。
 生体情報モニタ: 前年同期に好調だった送信機、ベッドサイドモニタが減収。臨床情報システム、センサ類など消耗品は堅調に推移。
 治療機器: 人工呼吸器、AEDが好調だった前年同期を下回る。除細動器は好調に推移。
 その他: 検体検査装置や医療機器の設置工事・保守サービスが好調に推移。

- 国内売上高は、30億円減の935億円となりました。検査・手術件数の回復や設備投資の再開により、生体計測機器や検体検査装置は好調に推移しました。消耗品・サービス事業も好調でした。一方で、前年同期に感染症対応のため整備が進んだ生体情報モニタや人工呼吸器の反動から減収となりました。
- 市場別では、設備投資の再開や検査・手術件数の回復により、診療所市場が好調に推移し、大学市場も堅調でした。官公立病院、私立病院市場は減収となりましたが、前年同期のコロナ関連需要の影響を除くと堅調でした。
- 商品別では、生体計測機器が二桁成長となり、その他商品群も堅調に推移した一方で、生体情報モニタ、治療機器は、好調だった前年同期を下回りました。
- 生体計測機器は、脳神経系群、心臓カテーテル検査装置群が二桁成長となりました。診断情報システムも好調に推移、心電計群も堅調でした。
- 生体情報モニタは、前年同期に好調だった送信機、ベッドサイドモニタが減収となりましたが、臨床情報システムやセンサ類など消耗品は堅調に推移しました。
- 治療機器では、人工呼吸器、AEDが好調だった前年同期を下回りました。
- その他商品群では、検体検査装置や医療機器の設置工事・保守サービスが好調に推移しました。

4) 海外売上高

【地域別売上高】



【海外売上高比率】

	2022/3 第3四半期累計	2023/3 第3四半期累計
比率	34.8%	35.3%

【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

商品群	2022/3 第3四半期 累計	2023/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	6,895	7,007	1.6
生体情報モニタ	27,540	25,259	△ 8.3
治療機器	12,245	13,392	9.4
その他	4,800	5,328	11.0
売上高合計	51,481	50,987	△ 1.0

為替影響除く: △16%

【地域別】 米州: 米国は現地通貨ベースで減収も、円ベースでは増収。中南米がメキシコ、チリを中心に減収。
 欧州: ドイツ、イギリスは好調に推移したものの、フランス、トルコが低調に推移。
 アジア州他: 前年同期に好調だった中国、ベトナム、エジプトでの反動により減収。
 【商品群別】 生体計測機器: 脳神経系群がアジア州他、中南米で大幅増収。心電計群は中国を中心に低調に推移。
 生体情報モニタ: 米州、アジア州他が大口商談やCOVID-19関連需要の反動により減収。欧州は前年同期を上回る。
 治療機器: AEDが全ての地域で好調に推移。人工呼吸器、除細動器は前年同期を下回る。
 その他: 血球計数器・試薬が中南米、欧州で好調に推移。

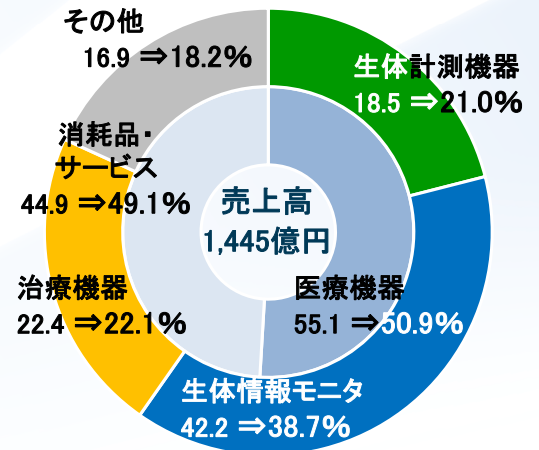
- 海外売上高は5億円減の509億円、現地通貨ベースでは16%の減少となりました。海外売上高比率は35.3%となりました。
- 米州では、米国は現地通貨ベースでは減収となったものの、円ベースでは増収となりました。中南米がメキシコ、チリを中心に減収となりました。米国は、AEDなど治療機器が好調に推移し、新製品の中位機種ベッドサイドモニタを投入した生体情報モニタも第3四半期で大きく回復していますが、社内計画には届きませんでした。
- 欧州は、現地通貨ベースでは減収でしたが、円ベースでは増収となりました。ドイツ、イギリスは好調に推移したものの、フランス、トルコが低調でした。
- アジア州他では、前年同期に好調だった中国、ベトナム、エジプトでの反動により減収となりました。中国は、現地通貨ベース、円ベースともに二桁減収となりました。上期は上海ロックダウンの影響を受け大幅減収となりましたが、下期に入り増収に転じています。中国は12月決算であり、通期では、現地通貨ベースで二桁減収、円ベースで一桁半ばの減収の見通しです。
- 商品別では、生体計測機器、治療機器、その他商品群は増収となりましたが、生体情報モニタが減収となりました。生体計測機器では、脳神経系群がアジア州他、中南米で大幅増収となりました。心電計群は中国を中心に低調に推移しました。生体情報モニタは、前年同期の米国の大口商談や感染再拡大地域におけるコロナ関連需要の反動により減収となりました。治療機器は、AEDが底堅い需要に支えられ、全ての地域で好調に推移しました。人工呼吸器、除細動器は前年同期を下回りました。血球計数器・試薬は、中南米、欧州で好調に推移しました。

5) 商品群別売上高

(単位:百万円)

	2022/3 第3四半期 累計	2023/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	27,457	30,382	10.7
生体情報モニタ	62,425	55,970	△ 10.3
治療機器	33,149	31,887	△ 3.8
その他	25,046	26,316	5.1
売上高合計	148,078	144,557	△ 2.4
(ご参考)			
消耗品・サービス	66,431	70,938	6.8

商品群別売上構成比
(2021/12 ⇒ 2022/12)



- 生体計測機器は前期比10.7%増の303億円、生体情報モニタは10.3%減の559億円、治療機器は3.8%減の318億円、その他商品群は5.1%増の263億円となりました。
- 消耗品・サービスは、6.8%増の709億円となりました。検査・手術件数の回復に伴い、国内、海外ともに好調に推移しました。特に、国内では、導入品のカテーテルが二桁成長となったほか、医療機器の設置工事・保守サービスも好調に推移しました。自社のセンサ類など消耗品も堅調でした。

[参考] 商品群別売上高の内訳

(単位:億円、単位未満切捨て)

生体計測機器	2022/3 第3四半期 累計	2023/3 第3四半期 累計
脳神経系群	51	64
心電計群	48	47
心臓カテーテル検査装置群	99	117
その他(診断情報システム等)※	74	73

※診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。

治療機器	2022/3 第3四半期 累計	2023/3 第3四半期 累計
医科向け除細動器	63	59
A E D	128	142
ペースメーカー・ICD	19	17
人工呼吸器	69	40
その他	50	57

その他	2022/3 第3四半期 累計	2023/3 第3四半期 累計
検体検査装置	78	86
画像診断装置他※	172	176

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

- 商品群別売上高の内訳は、ご覧のとおりです。

6) トピックス

鶴ヶ島新工場用地を取得予定※

消耗品の生産拡大、コストダウンの取り組み

AED用使い捨てパッド

富岡第二工場

2017年度 増産、自動化



SpO₂プローブ

富岡第二工場

2018年度 自動化生産に着手
2022年度 自動化生産ラインの増設準備



筋弛緩モニタリング専用筋電図電極

川本生産センター

2022年度 生産ラインの増設、自動化生産に着手



筋弛緩 EMG電極 NM-34シリーズ

消耗品生産のマザー工場を建設

センサ類などの消耗品の製造・自動化生産技術の研究開発



イメージ画像

グローバルでの需要拡大に対応 2030年までに生産規模2倍以上(2021年度比)

- ・ 総投資額 90～110億円程度
工場用地取得費用 約23億円(予定)を含む
- ・ 取得時期 2023年3月(予定)、稼働開始 2026年(予定)
- ・ 所在地 埼玉県鶴ヶ島市
圏央鶴ヶ島インターチェンジ東側地区産業用地
- ・ 土地面積 約 34,463m²

※ 埼玉県議会の議決など必要な手続きを経て用地取得予定。

- 昨年12月末に発表しましたとおり、埼玉県鶴ヶ島市に、新しい工場用地を取得する予定です。こちらに、センサ類など消耗品の製造および自動化生産技術の研究開発を行うための新工場を建設します。
- 中期経営計画では、消耗品・サービス事業の強化に取り組んでおり、感染対策としてディスプレイ消耗品の拡販に注力するとともに、海外市場における消耗品事業を拡大するため、自動化等による生産供給体制の強化、消耗品のラインアップ拡充に取り組んでいます。
- 現在、消耗品の生産は、埼玉県深谷市の川本生産センターおよび群馬県の富岡第二工場で行っています。新工場を消耗品生産のマザー工場とし、自動化生産技術を活用しながら効率化を図るとともに生産規模を拡大して、グローバルでの需要拡大に対応します。
- 新工場を含めた消耗品の生産規模は、2030年までに現状の2倍以上を見込んでいます。工場建設の具体的な内容は検討中ですが、2026年の稼働開始を目指し、総投資額90億円から110億円程度で進める予定です。

7) 減価償却費と研究開発費

(単位:百万円)

	2022/3	2023/3	増減額	2022/3	2023/3 予想	
	第3四半期 累計	第3四半期 累計		前期実績	期初	11月9日 修正
減価償却費	2,467	2,661	193	3,422	3,700	3,900
研究開発費	4,040	4,395	355	5,711	6,300	6,400
		設備投資額		3,022	5,600	5,600

●2023/3 設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備

インド 試薬新工場の建設	総投資額:約11億円	<	2023/3:10億円 2024/3:1億円	着工:2022年9月 完成:2023年春 稼働開始:2024年春予定
PLM/MES※システムの導入	設備投資額:約25億円	<	2023/3:4億円 2024/3~2025/3:21億円	PLM:2024/3下期稼働予定 MES:2025/3稼働予定

※PLM(Product Life-cycle Management):製品ライフサイクル管理、MES(Manufacturing Execution System):製造実行システム。

↑
鶴ヶ島新工場用地取得費用
(約23億円、2023年3月予定)
は含まず。

- 減価償却費は前期比1億円増の26億円、研究開発費は3億円増の43億円となりました。
- 通期の減価償却費は39億円、研究開発費は64億円、設備投資は56億円で変更ありません。

8) 通期業績見通し

(単位:百万円)

	2022/3	2023/3予想		増減率 (%)	
	前期実績	期初	11月9日修正		2月2日修正
売上高	205,129	195,000	208,000	208,000	1.4
国内売上高	136,321	130,500	135,000	135,000	△ 1.0
海外売上高	68,807	64,500	73,000	73,000	6.1
売上総利益 (売上総利益率)	109,085 53.2%	98,200 50.4%	105,200 50.6%	105,200 50.6%	△ 3.6
営業利益 (営業利益率)	30,992 15.1%	16,500 8.5%	19,000 9.1%	19,000 9.1%	△ 38.7
経常利益	34,563	16,500	23,500	20,500	△ 40.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	23,435	11,000	16,000	13,500	△ 42.4
海外売上高比率	33.5%	33.1%	35.1%	35.1%	
平均レート					
1 米 ド ル	111.3円	117円	135円	134円	
1 ユ ー ロ	130.6円	130円	139円	141円	

← 為替影響除く: △10%

【地域別海外売上高】

	2022/3	2023/3予想		増減率 (%)
	前期実績	期初	11月9日修正	
米 州	33,436	34,400	37,500	12.2
欧 州	11,449	10,100	11,800	3.1
アジア州他	23,921	20,000	23,700	△ 0.9
海 外 計	68,807	64,500	73,000	6.1

※第4四半期の前提為替レートは130円/米ドル、140円/ユーロです。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

9

- 通期の業績予想につきましては、売上高および営業利益の予想については、変更ありません。第4四半期の為替レートを円高方向に変更したことで為替差益が縮小する見込みであることから、経常利益を205億円、純利益を135億円に見直しました。
- 国内売上高は、1%減の1,350億円の見通しです。AEDの通期売上は前回予想を下回る見込みですが、消耗品・サービス事業に引き続き注力するとともに、年度末に向けてITシステム商談を含む医療機器の納品・設置に着実に取り組みます。第4四半期では増収に転じる見込みです。
- 海外売上高は、6.1%増の730億円の見通しです。現地通貨ベースで前期比10%減を見込んでいます。第3四半期は米国が計画を下回って推移しているものの、新製品の中位機種ベッドサイドモニタやマスク型人工呼吸器の引き合いは好調であることから、引き続き提案強化に注力します。一方で、医療機器の需要が堅調に推移している欧州や中南米、12月の感染再拡大により生体情報モニタの整備が進んだ中国は前回予想を上回る見込みです。11月時点よりも対ドルで円高傾向にはありますが、通期計画の達成を目指します。
- 営業利益については、190億円に変更ありません。粗利率については、部材価格・光熱費高騰によるマイナス影響は継続しているほか、例年第4四半期に大口商談が集中する傾向にあることから、通期見通し50.6%に変更はありません。

[参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響

(単位:百万円)

	2022/3 前期実績	2023/3予想			増減率(%)
		期初	11月9日修正	構成比(%)	
生体計測機器	39,681	41,100	44,800	21.5	12.9
生体情報モニタ	84,860	75,900	80,100	38.5	△ 5.6
治療機器	43,388	41,000	42,800	20.6	△ 1.4
その他	37,198	37,000	40,300	19.4	8.3
売上高合計	205,129	195,000	208,000	100.0	1.4

(ご参考)

消耗品・サービス	90,576	94,800	101,300	48.7	11.8
----------	--------	--------	---------	------	------

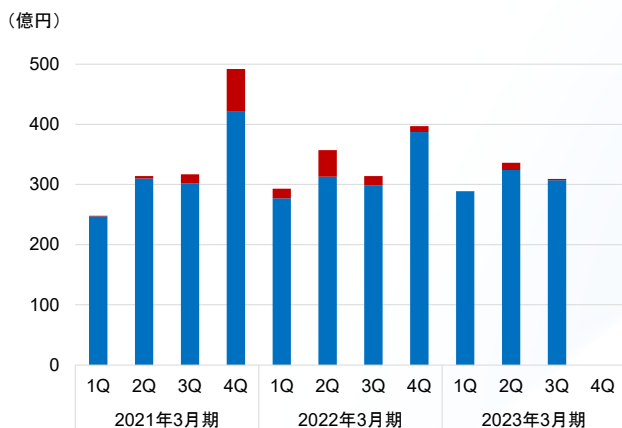
為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米ドル	3.6億円	0.8億円
ユーロ	0.6億円	0.2億円

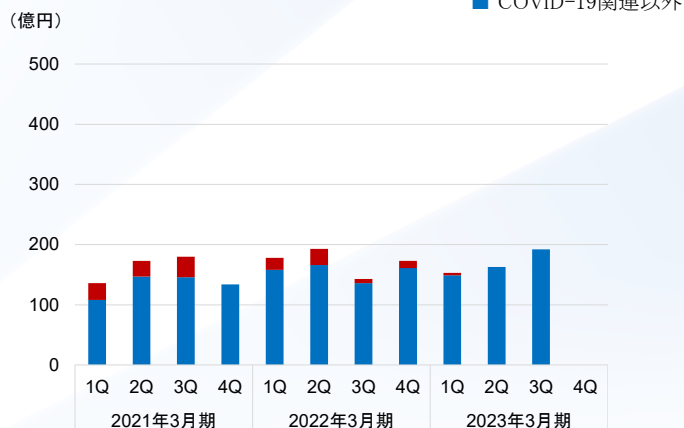
- 通期の商品群別の売上高予想につきましても、変更ございません。
- 半導体の需給ひっ迫の影響は上期に比べると改善傾向にありますが、一部の部品で納期が遅延していることから、期末に向けて生産や製品供給に影響が出ないように、製品在庫、部品在庫の確保を継続します。

[参考] COVID-19関連需要(概算)

【国内売上高】



【海外売上高】



2023/3 第3四半期累計 COVID-19関連需要	国内		海外	
		対前年同期増減		対前年同期増減
生体情報モトタ	11億円程度	△41億円程度	2億円程度	△29億円程度
人工呼吸器	4億円程度	△19億円程度	1億円程度	△10億円程度
除細動器	—	—	1億円程度	△4億円程度
合計	15億円程度	△60億円程度	4億円程度	△43億円程度

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

また、この資料に含まれている製品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。

【担当部署】経営戦略統括部
【連絡先】TEL03-5996-8003